#### INTERVIEW

## "知恵とスピード"でICT利用 によるイノベーションを加速

多機能ICカードや認証セキュリティ等、セキュリティ製品・ソリューションを中心とした開発及び提供と、次世代金融ソリューションの導入・拡大を図るNTTコミュニケーションズ・金融イノベーションシステム部。主要ミッションから最近のビジネスの状況、さらには今後の社会インフラ整備に役立つ仕組み創りに向けた取組みなどについて、舩橋哲也部長に伺った。

### 融・セキュリティ・イノベーション の3つのドメインを柱に事業展開

——はじめに、金融イノベーションシステム部(金融IS部) の主要ミッションからお聞かせください。

舩橋 大きく3つのミッションがあります。一つは ICTソリューションパートナーとして、金融業界にイノベーションを起こすような新しいビジネスモデルやソリューションを創出することです。2つ目は、社内では「セキュリティ型紙」と称していますが、社内の各事業部あるいはグループ会社と連携しながら、企業におけるセキュリティ対策を、抜け・漏れ・落ちのない形でトータルに支援する"One-Stop Security Solution"を展開しています。3つ目は、金融分野とセキュリティ分野における経験・ノウハウを活かして、ICT利用によるイノベーションをさまざまな分野で起こしていくことです。

――例えば、どのような分野ですか。

**舩橋** 一例を挙げると、医療分野におけるICT利用が 挙げられますし、厚生労働省が2011年度の導入を目指 している「社会保障カード」や、政府が検討している 「電子私書箱」といったICTを利用した社会インフラの 分野が挙げられます。また、携帯電話とのシナジーを 図るような領域についても取り組んでいます。

――米国発の金融危機に伴い、わが国も歴史的な景気後退局面を迎えていますが、周辺環境を含めた最近のビジネスの状況をお聞かせください。

**舩橋** サブプライム問題に端を発した世界同時不況の

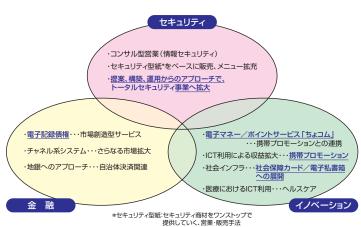
影響は非常に大き く、わが国の金融 業界も厳しさ一杯 という状況にあり ます。こういった 状況下において、



NTTコミュニケーションズ(株) 金融イノベーションシステム部長 **舩橋 哲也**氏

私どもが力を入れようとしている"電子債権"の分野は、 金融ビジネスの中核として、今後発展していくのではな いかと期待しています。詳細は後続の各論頁でご紹介し ますが、三菱東京UFJ銀行様の100%子会社の日本電子 債権機構設立調査株式会社(JEMCO®)様が今年の7月 から、2008年12月に施行された"電子記録債権法"に基 づく新しい電子記録債権決済サービス「電手®決済サービ ス」を提供開始する予定となっています。このサービス は、優良債権の可視化と中小企業の資金調達の円滑化に 資するという観点から非常に期待されていると同時に、 ICTの利便性を一番享受していただける市場ではないか と考えています。私ども金融IS部は、金融機関の基幹系 も手掛けていますが、それよりもチャネル系など周辺系 システムの構築に多くの実績を有しています。この点を 踏まえ、金融業界におけるICTを活用したイノベーショ ンの実現にお役に立てるように取り組むことが私どもの 使命だと考えています。

ビジネスの状況的には、これまでの取組みを精査して選択と集中を行うことで、我々の強み・付加価値を本当に活かすことができ、さらなる成長が見込めそうな領域にリソースを集中することに注力しているところです。しかも金融IS部独自でなく、フロントの営業



金融イノベーションシステム部の事業活動の方向性

部隊と連携したうえで取り組むことを基軸にしています。その一つが、電子債権のような分野ですし、自治体向けの決済分野についても電子債権の応用も含めて長期的なスパンでの検討を行っています。また、私どもの強みであるネットワークやデータセンターとセットで機能を発揮するようなSaaSやASPの領域についても積極的に取り組んでいます。

### 融品質のグレードを保ちつつ、 経済的な保守運用に注力

──今年度の重点施策の概要をお聞かせください。

**舩橋** 現在取り組んでいるお客様システムの円滑なカットオーバーはもちろんですが、保守の品質を合わせて担保することに特に注力したいと思います。ややもすると、開発サイドの側面で構築することだけに注力しがちですが、構築した後もきちんとサポートを継続することも私どもの重要なミッションです。したがって今年度は特に、金融品質のグレードを維持しつつ、いかに経済的な保守運用サービスを提供するかの両輪で事業展開することに注力します。ビジネスの目標としては、前述したように非常に厳しい状況下ですが、私どもがお手伝いできることがまだまだあると思っていますので、昨年度に引き続き2年連続で成長路線に乗せることを目指しています。

----そのための秘策は・・・・。

舩橋 特に秘策というものはありません。とにかく

日々一つ一つの案件に丁寧に取り組むことと、社員間で の情報の共有化と仕事の見える化を図ることによって、 改善を着実に行うこと以外にはないと考えています。

# 大口 恵とスピードが事業拡大の鍵

金融IS部長に就任されて以降、社員の方々に向けて 日頃からどのようなメッセージを発信されていますか。

**舩橋** 昨年の就任以来、とにかく"明るく、楽しく"、 "仕事に付加価値を付ける"という2つのキーワード に加え、"前例に捉われることなく見直すべきものは 見直すという地道な努力を続けていく"という私の考 えを伝え、少しずつ皆様方の理解を得てきていると思っています。今年に入ってからは、"知恵とスピード" というメッセージを発信しています。事業部の名称である"イノベーションを司る"ということは、知恵が 勝負です。社員ひとり一人が知恵を出してこそ、私ど もの事業部は成り立ちますので、知恵を明るく、楽し く出せる職場にしたいと思っています。また、仕事を 進めるうえで悩むことが多々あると思いますが、悩む 時間をできるだけ短くして、まずやってみる。そのう えで、上手くいかなかったらすぐ直すというスピード 感のある事業運営を重視しています。

――最後に今後の夢、抱負をお聞かせください。

**舩橋** 社会インフラ整備という観点で、2011年度に「電子私書箱」「社会保障カード」といった大きなテーマがあります。そこにどれだけ私どもの経験値を活かすことができるかが、試金石になると捉えています。成長あるいは夢という意味でも、これまで苦労してきた経験が活かせる場をいただいていると思っていますので、まさにそこに向けて全力投球したいと考えています。"金融"と"セキュリティ"という2本柱の事業ドメインのさらなる成長を図りつつ、経済的にしかも高付加価値のICTによる社会インフラを提案することが、私どもの当面の使命だと思っています。

――本日は有り難うございました。

(聞き手・構成:編集長 河西義人)